

「ふるさと歴史教室」

町名の由来を知り、田鶴浜地域の歴史を学びましょう。

赤蔵山麓

二宮川流域

を中心に縄文早期から今日まで暮らしてきたところが私たちの「田鶴浜地域」です。

町名	町名の由来 (そのようになった道筋)
<p>吉田 よし た</p>	<p>古くから水田耕作。良い米が取れる、良き田 (吉き田) → 吉田 となる。 縄文前期の「吉田野寺遺跡」、弥生後期の「吉田<small>きょう</small>塚山遺跡」があります。</p>
<p>伊久留 い くら</p>	<p>①長谷部 (長家) の家来の「伊久留氏」がいたから ②もともとは「往留」と書き、往きどまりの奥にある村という意味か。 往留→伊久留</p>
<p>高田 たか た</p>	<p>「神戸郷」 (かんべごう) の中心地であった。 「御田」 (みた) という神様の気<small>け</small>高い田<small>た</small>があったので高田となった。 ※12世紀の郷村制 国→荘→郡→郷→保→村</p>
<p>田鶴浜 たつるはま</p>	<p>古くは、鶴 (つる) のことを、鶴 (たづ), 田鶴 (たづ) と呼んでいた。浜辺に鶴がよく遊んでいた ので鶴浜 (たづのはま) 田鶴浜 (たづのはま) →田鶴浜 (たつるはま) 明治22年の町村制で…… ※713年 (和同6年) の「伊勢風土記」に、 「桑名郡田鶴浜あり……」とあるので、同じ地名 が奈良時代に三重県にもあったことがわかる。 ※「風土記」……地名の由来, 産物, 伝承を集めた 地理書 5風土記が残っている ※現存する「風土記」: 「出雲風土記」島根県 「常陸風土記」茨城県 「播磨風土記」兵庫県 「豊後風土記」大分県 「肥前風土記」佐賀県</p>

<p>三 引 み びき</p>	<p>御池・杉の堂・水呑み場の三カ所から水を引いて生活していた。 → 三引 縄文早期の三引遺跡（約7200年前）がある。十萬点の遺物が発見され、なかでも漆塗りの縦櫛（たてぐし）は世界でも有名。</p>
<p>舟 尾 ふ のお</p>	<p>川の下流，川の尾に舟をつないだ船着場であったところから 舟尾（ふのお・ふのう）と呼ばれている舟尾川にかかる能登鉄道の鉄橋から約200m下流を「白物場」（しろもんば）と呼び木材の積み場であった。</p>
<p>川 尻 かわ しり</p>	<p>二宮川が，川尻の七尾西湾まで土砂を運んできてその土砂の上にできた村。 → 川尻にある村</p>
<p>新 屋 あら や</p>	<p>荒地を開墾してできた新しい村 荒→新 荒地 → 新家（あらや） → 新屋（あらや）</p>
<p>垣 吉 かき よし</p>	<p>一つの囲まれた区画のことを「垣内」（かくち）と呼ぶ。そのなかでも良い（吉い）「垣内」のことを「垣吉」（かきよし・かきし）といった。</p>
<p>杉 森 すぎ もり</p>	<p>赤蔵山の東側にあつて，赤蔵山から続く丘のふもとに杉の森があつたことによる。</p>
<p>西 下 にし しも</p>	<p>二宮川に伊久留川と吉田川が合流する地点にあり川の下流にあるため，下村（しもむら）と言つていたが，後に郡内の西の方の <u>下村</u>→西下 となつた</p>
<p>七 原 しつ はら</p>	<p>当地は山間部でもとは湿地帯。「しっち」がなまつて「しち」。湿地原→しち原→しつ原→七原 古くは交通の重要な場所であつた。湿→七</p>
<p>大 津 おお つ</p>	<p>以前は，現在の集落のそばまで海が入り込んでいて波静かな大切な港であつた。港＝津（つ） 大津遺跡（縄文前期），8世紀ごろの古墳あり。 ※縄文時代は約1万年続く。6期に分けられ 草創期 早期 前期 中期 後期 晩期</p>

<p>白 浜 しら はま</p>	<p>産土神（うぶすながみ・土地の守り神）をまつる「白比古神社」のご神体が海辺の白い砂浜から上がってきたという言い伝えにより、白浜 となる。 ※「延喜式神名帳」（平安中期 927年 法令集）に、「能登17座のうち白比古神」とある。 縄文時代前期（6000年前）の白浜遺跡あり。</p>
<p>深 見 ふか み</p>	<p>平沢谷（ひらそだに）を水源とする川沿いにある村深谷，深見谷など水豊かな奥まった所という意味か 深→奥深い 見→場所，状態 → 深見 また，深い入海であったという説もあります。</p>

※町名の由来については，古文書や言い伝えによるもので，確定しているものではありません。これから，皆さんも一緒に考え，研究していきましょう。

《参考》

※「風土記」 和同6年（713）5月に出された官命

1. 郡や郷の名に好ましい漢字をつける。
2. 特産品の目録を作成する。
3. 土地の肥沃状態を記録する。
4. 山川原野の名前由来を記す。
5. 古老が言い伝えてきた伝説などを載せる。

・地名表記の全国的な統一めざした律令国家としての地歴書

※「神戸郷」（かんべごう）

九世紀前半，能登郡にあった九郷のうちのひとつ神戸は神社を管理するために国が定めた郷戸で，神戸郷は奥原，高田，三引保の高田を中心とした地域とする考え方があります。

※「縄文時代」 6期に分けられている。

- ・草創期 (約12000年前～約9000年前)
- ・早期 (約 9000年前～約6000年前)
- ・前期 (約 6000年前～約5000年前)
- ・中期 (約 5000年前～約4000年前)
- ・後期 (約 4000年前～約3000年前)
- ・晩期 (約 3000年前～約2300年前)